



三春中学校だより

第15号

発行日 平成30年 6月21日

発行所 三春町立三春中学校

電話 0247-62-2181 F A X 0247-62-6978

E-mail miharu-j@fcs.ed.jp

【教育目標】『三春に暮らす生徒一人ひとりに、将来に対して喜びと生きがいのある人生を主体的に創造する力を育み、地域に信頼され、ひいては、国際社会に貢献できる人材を育てる』

【共に『創る』！ ～吹奏楽、合唱、本番にむけて共に創りあげています。～】

吹奏楽部の各教室等でのパートごとの練習を巡って歩くと、各所で話し合う姿が多くみられました。自分たちで話し合い、よりよい音楽をめざしている様子を感じられます。合唱も同様、女子生徒1人を男声パートが取り囲み、話し合ったり聴き合ったりしていました。楽譜は一つであったとしても、演奏に関しては、それぞれのチームの特長が出てくるそうです。まさに、自分たちで、音楽を『創る』ということでしょう。三春中学校の『聴き合い・学び合い』の精神は、部活動にも脈々と流れていました。

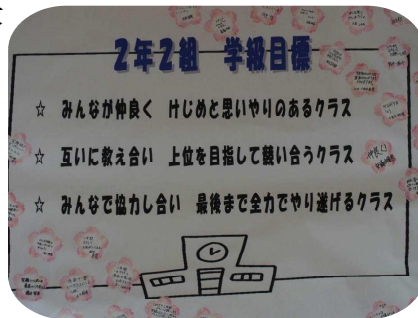


【目標の再確認・再設定を！ ～個人として、学級として、委員会として～】

各学年、各学級において、さまざまな掲示物が工夫して作成され、掲示されています。学級目標や新たな『999』などなど。中体連も一区切りを迎え、いよいよ、新チームづくりや進路への学習、そして、それぞれの『命の輝き』づくりなどに本格的に取り組む時期でもあります。

学校では、さまざまな機会を捉えて、4月当初にたてたそれぞれの目標等を再確認し、継続してその実現をめざしたり、目標と現状を見つめ直し、新たな目標設定をもったりする場面を具体的に設定してくださいと伝えました。

ご家庭におかれましても、お子様の今の目標等について話題にあげていただければ幸いです。そして、その目標等に向かいがんばる子どもたちを、共に勇気づけ、励ましてまいりましょう。



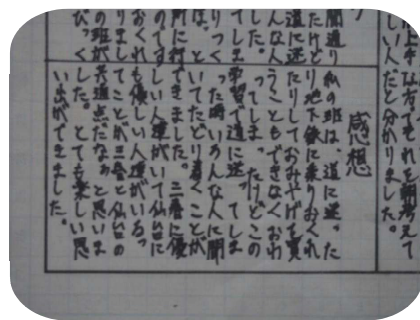
【一人ひとりの学びの跡がまとまりました！ ～仙台学習旅行から学んだこと～】

第2学年のホームページには、先日行われた仙台学習旅行レポートを一人ひとりの生徒がA4版1枚にまとめられたものが掲示されています。レポートには全員五・七・五で学習旅行の思い出が綴られ、中には、空欄が目立つものも見かけられますが、学校での学習は、『時間と場との勝負』。そのこともふまえた上での学年掲示となっているのでしょう。

慣れない街で出会った人の心の優しさとの出会い、計画を立てて計画通りに行動することの難しさ、時間を意識した活動の必要性、責任を果たすことのたいへんさと大切さ、新しいクラスのメンバーと活動することへの少しの不安や新たな出会いを大切にしようとする心、三春町と仙台の比較、訪問先に関しての知識や歴史への感動など、それぞれの生徒が仙台市における体験を通して学んだことをまとめていました。

会津・仙台への学習旅行、関西方面への修学旅行と学年や発達段階に応じ、体験活動が実施されました。それぞれの活動が、活動のみに目を奪われることなく、“為すことから学び、為すことを通して学ぶ”という体験活動のねらいをきちんとふまえたまとめの学習となっていました。

いろいろなことを感じ、考え、学び、子どもたちは大人になっていきます。



【屈強!?なお兄さん、お姉さんと共に！～スポーツテストをお手伝いいただきました。～】

6月19日(火)の2～4校時、校内外を利用し、スポーツテストが実施されました。日頃の運動への取り組みの成果確認と健康の維持向上をめざして全国的に行われるものですが、先日の体育フェスティバルでの集団行動披露に引き続き、地元の高校である田村高校との中・高連携を図るねらいもあり、この日は、田村高校体育科の高校生にもお手伝いいただき実施しました。

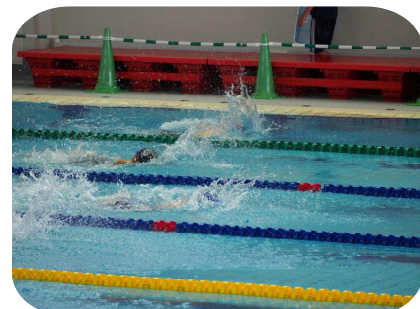
CGで行われた握力テストでは、とても握力のありそうなお兄さんから握力計を渡され、子どもたちは一生懸命レバーを握っていました。そのお兄さんの握力はいかばかりかと女子生徒がその男子高校生を取り巻く場面もみられ、真剣な中にも和やかかつスムーズにスポーツテストは進みました。あいさつ・礼儀のお手本も示していただき、地元の高校とのすばらしいふれあいの機会でもありました。



【県中水泳、スタート！～三春中代表としてもがんばりました。～】

6月20日(水)、梅雨空のどんよりとした天気の中、早朝7時、昇降口前に4人が整列し、県中地区中体連水泳競技の出発のあいさつがありました。郡山市の開成山にできた新プールにおいてはじめて開催される県中大会ですが、選手は、普段から使用しているプールとのことで、場慣れの心配はないということでした。

学校を離れ、それぞれの場を取り組んできた水泳競技ですが、今回は、三春中学校代表としての大会参加であり、三春中学校全体からの応援を後押しに、ますますの活躍が期待されます。



【世界保健機構 (WHO) で『ゲーム障がい』を疾病に認定！～日常生活に大きな支障が～】

世界保健機構 (WHO) は、ゲームのやり過ぎで日常生活が困難になる『ゲーム障がい』を依存症の一つとして新たな疾病に認定しました。世界保健機構 (WHO) によれば、ゲームをしている人の2～3%がゲーム障がいと見られると指摘しています。

ゲーム障がいは、①ゲームをしたい衝動が抑えられない。②日常生活よりゲームを優先する。③問題が起きても続けるなどの特徴があり、12ヶ月以上続いている場合にゲーム障がいと診断されるそうです。日本初のインターネット依存治療専門外来を設立した国立病院機構久里浜医療センターの樋口院長さんによれば、外来患者のほとんどがオンラインゲームからネット依存に陥り、未成年の依存患者が全患者の7割を占めているそうです。ゲーム障がい(依存)患者の抱える問題は、“朝、起床できない、昼夜逆転、欠席・欠勤、ものにあたる・壊す、食事をとらない、引きこもり、睡眠時間が短い、家族への暴力、過剰な課金”などがあります。

『ゲーム障がい』という依存症の疾病です。三春町の『ノーディスプレイ運動』、三春中学校の『999』は、いずれも、ディスプレイが脳に与える悪影響、そして、『ゲーム障がい』から身を守るために欠かせない活動です。ぜひ、みんなで守り、推進していきましょう。

いろいろな病気への対策も同じですが、かからないように、もし、かかってもそれ以上悪くしないように、日頃から自分自身をコントロールして生活していきましょう。